

釜石市 認メズ

大槌町 役場ノ東方ヨリ少シ北寄りノ海上ニ青色(外ノ色ヲ交ヘズ)ノ光ヲ認メ電光ニシテハ不思議ト思ヒ当所ニ照会アリ。出現時刻ハ初メノ地震ノ最モ激シク振レル時ナリト。

山田町 役場ニテハ認メズ

漁業組合、安齋工場ニテハ初メノ地震ニテ光ヲ見タ由詳細不明ナリ。

船越村大字大浦 初メノ地震中南方ニ光ヲ見ル

時刻、色等詳細不明

重茂村 郵便局ニ照会セルニ山合ノ地ニアルタメカ認メズト。沿岸部ハ調査セズ

宮古町 認メズ

田老村 海岸ニ出テ居タ人ハ後ノ地震(十九時五十一分)ノ二十分位後ニ二、三回光ヲ認メタル由、色彩ハ不明ナルモ當時イカ釣船ノガス灯火トハ異ナリテ二、三回現ハレ「又見エタ、又見エタ」等ト云ツテ騒イデ居タ由。

普代村

漁業組合ヨリ電話アリ、後ノ地震(十九時五十一分)ノ最中南方流星ノ如キ色彩ヲ持ツ二ツノ光ヲ認メタリト。

V チリ地震津波(昭和35年5月24日)

1 昭和35年5月のチリ地震津波災害

〔岩手県災害関係行政資料1〕災害関係行政資料等整備調査委員会

第1 津波の状況

1 津波の概況

昭和35年5月24日早朝チリ地震津波は突如として日本の太平洋沿岸を襲い、北海道、三陸などを中心に死者行方不明139名をはじめ、家屋、耕地、船舶および水産関係に大被害を与えた。なかでも岩手県沿岸では、津波の波高が最も高く数湾において5呎以上の大津波となり最大の被災地となった。

今回の津波は、5月23日4時15分頃(日本時間)にチリ国の中部西海岸で発生した地震によるものではるる太平洋を横断してきた極めてまれなものであり、今までに来襲したいわゆる三陸沖地震津波による場合と比べてかなり異なった様相を示した。

2 津波の特徴

チリ地震津波はチリ沖に発生した地震によるものであるが、チリにおいては連日地震が発生し、その規模はマグニチュード7.75、8.75に達するもので、これによりチリ国沿岸には大津波が押し寄せ局地的には10呎の大波となり大被害を与えた。

この津波は、チリ海岸だけでなくアメリカ合衆国太平洋岸、ハワイ諸島を経てわが国の太平洋岸に達した。

また、この津波の被災地域の広さは、有史以来最大であり、北は北海道から南は九州東部におよぶ広範囲なものであった。

近海沖地震津波について一般に

- 地震発生後30、40分で三陸沿岸に第1波が来襲する。
- 津波の周期は10、20分で来襲は5、7回である。
- 津波の浸水高はほぼ
 - ・ 大きい湾で3、6呎

・ V字形湾で10、25呎
・ U字形湾で8、10呎
・ 扁平な海岸で5、7呎
と考えられているが、チリ地震津波について比較すると

○ 津波来襲地域

前述のとおり今回の津波は、日本の太平洋岸全域におよぶものであり、波高が高く被害の大きかったのは比較的大きな湾すなわち、大船渡、広田、山田、宮古であり、昭和8年津波で大被害のあった吉浜、田老、綾里では水位が低く被害も軽微であった。

○ 津波の形

明治29年、昭和8年の津波は鎌首をもたげた直立状の大波が押し寄せ家屋を押しつぶしたが、今回の津波はそのような形ではなく潮が静に上下するという状況であった。もっとも陸上部に侵入すると急激に流速を増し、河川を遡る時は小さい直立した形で進んでいる。

○ 津波の波長

チリ地震津波の波長は長く約40分の周期で水位が上下するゆっくりしたものであった。

○ 津波の波高

津波の波高は、一般的に、昭和8年、明治29年の方が高く、チリ地震津波は低い。しかし今回の津波と昭和8年の津波の著しい差は、昭和8年の時には湾の入口で高く、奥に行くにしたがって低くなっているが、今回の津波は湾口で低く奥に行くに従って高くなっていることである。

例えば、宮古湾では昭和8年湾口で8.2呎に達し、湾奥部金浜で3.5呎となつてはいるが、今回はほぼ同箇所の湾口で2.0呎中央部で3.0呎、5.0呎湾奥部で6呎と次第に高くなつてはいる。

また、大船渡湾では湾口部7.8呎湾奥で3.1呎であるのに対し、今回湾口部3.0呎中央部5.0呎奥部で5.5呎に達している。以上の関係を各湾毎に示すと次のようになる。

2 市町村別、種類別被害

被害項目		被害
人的被害		370人
内 訳	死 者	57人
	行 方 不 明 者	5人
	負 傷 者	308人
住 家 被 害		6,678戸
内 訳	全 壊	465戸
	流 失	497戸
	半 壊	1,209戸
	床 上 浸 水	2,990戸
	床 下 浸 水	1,517戸
非 住 家 被 害		2,027戸
り 災 戸 数		6,678戸
り 災 人 員		35,167人
被 害 額 計		11,513,939千円
内 訳	建 物 被 害	2,923,060千円
	土 木 関 係 被 害	1,505,794千円
	耕 地 関 係 被 害	731,634千円
	農 林 畜 産 関 係 被 害	602,558千円
	水 産 関 係 被 害	2,657,439千円
	商 工 鉦 関 係 被 害	2,781,075千円
	教 育 施 設 関 係 被 害	31,150千円
	公 用 及 び 公 共 用 施 設 関 係 被 害	278,899千円
公 営 企 業 等 施 設 関 係 被 害		2,330千円

(注)り災世帯、人員は、災害で住家被害を受けた世帯、構成員をいう。

が、更に、
 ○ 津波の来襲が早晩であったこと。
 ○ 津波の来襲は午前4時30分頃であり就寝中の人が大半であったこと。
 ○ 何の前ぶれもなく突如来襲したこと。
 ○ 過去に来襲した津波は地震後30分程度で来襲し一般に地震が起きてから津波がやって来ると思われていた。
 ○ 大きな湾の奥部に人口が集中しており平坦地が続き避難しうる高
 津波警報の発令が遅れたこと。
 1 被害の総括

津波浸水高表(T. P. 上)

地名	湾名	明治29年	昭和8年	昭和35年 チリ地震津波	摘要
八久野普小田宮金姉大山大両釜本小吉越白大細沼長只	木湊	18.3	7.2	3.1	偏 平
	八久野	—	8.7	4.5	大きなU字形
	田代	20.0	15.6	4.4	偏 平
	代本	—	16.9	4.3	小さいU字形(偏平)
	老古	11.8	13.4	4.1	小さいU字形(偏平)
	古浜	14.6	6.4	4.3	小さいU字形
	宮古	9.1	8.2	2.0	大きい湾
	山田	6.3	3.5	5.6	大きい湾
	山田	18.8	14.0	3.0	小さいV字形
	山田	3.9	4.4	4.0	大きい湾
喜 越 喜 来 喜 里 大 船 渡 浦 田 部 越	沢田	5.5	4.2	3.3	大きい湾
	田槌	4.2	3.4	4.0	大きい湾
	石石	11.7	9.5	3.5	V字形
	石石	6.0	4.4	3.0	2重V字形
	唐唐	15.3	9.9	—	小さいV字形
	唐唐	17.3	12.1	3.0	V字形
	喜喜	26.3	14.6	4.8	V字形
	喜喜	11.3	6.3	3.4	V字形
	喜喜	38.2	29.3	4.9	V字形
	喜喜	5.8	3.1	4.4	大きい湾
白 船 渡 浦 田 部 越	浦田	5.8	3.8	2.7	大きい湾
	田部	—	3.5	5.4	大きい湾
	越	4.6	3.6	5.2	大きい湾
	越	10.5	8.5	4.6	大きい湾

区分 市町村名	建物関係 千円	土木関係 千円	耕地 千円	農林畜産 千円	水産関係 千円	商工鉦 千円	教育施設 千円	公用及び 公共施設 千円	公営企業 等施設 千円	合計 千円
陸前高田市	432,630	668,700	441,417	132,184	835,250	51,395	450	7,760	260	2,570,046
大船渡市	1,149,900	295,974	86,575	156,763	332,823	2,157,482	6,234	4,678	1,200	4,191,629
釜石市	185,210	113,067	14,222	79,080	236,225	170,227	783	128	—	798,935
宮古市	272,400	265,610	73,732	73,098	273,769	51,227	22,875	1,543	—	1,034,254
久慈市	7,310	3,740	—	18,118	27,897	2,526	808	—	—	60,399
大槌町	364,330	49,200	3,993	47,579	338,277	156,840	—	2,960	70	963,199
山田町	489,310	41,500	43,558	41,237	485,121	191,378	—	230	800	1,293,134
田老町	—	—	—	6,054	896	—	—	—	—	6,950
岩泉町	—	—	—	12,403	569	—	—	—	—	12,972
種市町	3,070	59,200	—	5,143	31,519	—	—	100	—	99,032
三陸町	700	3,200	2,250	17,704	41,561	—	—	—	—	65,415
田野畑村	—	—	323	1,881	21,287	—	—	—	—	23,491
普代村	—	5,610	400	1,701	15,078	—	—	—	—	22,789
野田村	18,200	—	65,164	9,613	17,217	—	—	—	—	110,194
その他	—	—	—	—	—	—	—	261,500	—	261,590
計	2,923,060	1,505,794	731,634	602,558	2,657,439	2,781,075	31,150	278,899	2,330	11,513,939

○市町村別被害

第2 被害状況
 今回の津波の岩手県での被害は、死者行方不明62名、負傷者277名、被害額115億円に達するもので、この被害は比較的大きな湾、すなわち広田湾、大船渡湾、山田湾、宮古湾で大きく、昭和8年の津波で被害が大きかった吉浜、田老、両石、綾里では水位が低く比較的被害も少なかった。
 チリ地震による津波は、過去における津波と異質の津波であって被害は明治29年、昭和8年津波に比べれば
 死者行方不明 18,000名
 人家流失倒壊 5,500戸
 明治29年 18,000名
 昭和8年 2,700名
 チリ地震津波 62名
 2,171名
 となつてゐる。しかし過去の津波の経験によって防波施設の作られた、田老町等には浸水高も低く、被害も少なかったが、被害の大半が防護処置のほとんどなかった大きい湾の奥部に集中したため、経済的な損失は過去の津波に匹敵するものであった。またこれらの地域が三陸沿岸の生産活動基地であることから考えるとこの津波による被害は全く大きいものといわなければならない。
 本県の海岸線延長は、500キロメートル余であり、このうち要防護延長は75キロメートルとなつてゐるが、チリ地震津波来襲時までに防浪堤が築造された地区のうち大規模なものは田老、吉浜の防浪堤であり、小規模なものは大槌、越喜来(護岸)にあり、また山田町にも防潮壁が築造されてきたに過ぎなかった。被害の最も大きかったのは大船渡市であり、県全体の被害額115億円の約1/3の42億円であり陸前高田市の26億円を加えればこの被害の半分以上はこの地域に集中した。
 また、死者行方不明者についてもこの地区で61名の犠牲者を出してゐる。
 本県の被害総額は115億1300万円であり、この内訳は次表のとおりである。
 このような大被害を受けた原因が異質な津波であつたこともある

木造家屋は1.5〜2.0mの水深でほとんどが倒壊しているがモルタル造りでは2.0m程度ではほとんど無傷であり、3.0〜4.0mでも全壊を免れたものもある。しかし、三陸地震津波のような短周期の場合には更に低い水位でも倒壊すると思われる。また背後に山の近い家屋では同様の水位で半壊、或は浸水に留まった所もあり、津波の流速によって異なった様相を示している。

区分→ 市町村名↓	住家の被害						非住家の被害		合計	
	浸水			計			戸数	被害額 千円	戸数	被害額 千円
	戸数	人員	被害額 千円	戸数	人員	被害額 千円				
陸前高田市	67	403	670	570	3,255	384,820	683	47,810	693	432,660
大船渡市	105	610	1,050	1,361	7,466	1,093,200	810	56,700	1,361	1,149,900
釜石市	530	2,507	5,300	1,351	6,524	180,800	63	4,410	1,351	185,210
宮古市	345	1,700	3,450	740	3,797	269,200	60	4,200	740	272,400
久慈市	1	2	10	10	48	4,510	40	2,800	40	7,310
大槌町	343	1,837	3,430	1,251	6,542	348,580	225	15,750	1,251	364,330
山田町	126	675	1,260	1,383	7,461	482,310	100	7,000	1,383	489,310
種市町				2	8	1,950	16	1,120	16	3,070
三陸村							10	700	10	700
野田村				10	66	16,800	20	1,400	20	18,200
計	1,517	7,734	15,170	6,678	35,167	2,781,170	2,027	141,890	6,855	2,923,060

耕地関係等被害

区分→ 市町村名↓	農地農業用施設									
	田		畑		計		農道			
	面積 ha	被害額 千円	面積 ha	被害額 千円	面積 ha	被害額 千円	箇所	延長 m	被害額 千円	
陸前高田市	157	31,500	117	17,600	274	49,000	5	300	6,500	
大船渡市	120	24,000	171	25,700	291	49,700	15	650	4,500	
釜石市	78.4	15,700	50.5	7,600	128.9	23,300	—	—	—	
宮古市	92	18,400	82	12,300	174	30,700	3	180	900	
久慈市	—	—	1.5	300	1.5	300	—	—	—	
大槌町	27	5,400	14	2,100	41	7,500	—	—	—	
山田町	110	22,000	80	12,000	190	34,000	12	820	6,500	
田老町	10	2,000	17	2,600	27	4,600	—	—	—	
種市町	—	—	10	1,500	10	1,500	—	—	—	
三陸町	2	400	33	5,000	35	5,400	6	570	3,500	
田野畑村	5	1,000	19	2,900	24	3,900	—	—	—	
普代村	3	600	23.5	3,500	26.5	4,100	4	350	2,000	
野田村	16	3,200	3.4	500	19.4	3,700	5	500	2,800	
計	620.4	124,100	621.9	93,600	1,242.3	217,700	50	3,370	21,700	

◆農業の被害◆
今回の津波は前記したように大きな湾の湾奥部への浸水が大きく、この地区が三陸地域の平地の大半を占めているため、市街地、耕地に大被害を及ぼした。すなわち、広田湾の高田、宮古湾の津軽石等の水田地帯では、流失、埋没、冠水等耕地の被害は1,242haに及んでいるが、岩手県沿岸部の山の迫った地形では、200ha以上の集団耕地がほとんどない状態から考えると非常に大きな被害といわなければならない。しかも、定期的に田植を控え苗代、本田に与えた影響は大きかった。

人の被害

区分→ 市町村名↓	罹災者総数	罹災世帯数	死者	行方不明	負傷		合計
					重傷	軽傷	
陸前高田市	3,688	683	7人	1人	1人	1人	9人
大船渡市	7,466	1,480	50	3	27	275	355
釜石市	6,524	1,351					
宮古市	3,797	740		1			1
久慈市	192	40			1		1
大槌町	6,542	1,251			1	1	2
山田町	7,461	1,383			1	1	2
種市町	64	16					
三陸村	55	10					
野田村	132	20					
計	35,921	6,974	57	5	31	277	370

○種類別被害
◆人的被害◆
人的被害は、死者57名、行方不明5名、負傷者308名で大船渡、陸前高田地区に集中した。これは陸上へ上がった津波の流速は非常に大きいものであり、また陸上での水深が2.0m〜3.50mにも達し、家屋が倒壊したことによったためである。

建物の被害

区分→ 市町村名↓	住家の被害											
	全壊			流失			半壊			浸水 床上		
	戸数	人員	被害額 千円	戸数	人員	被害額 千円	戸数	人員	被害額 千円	戸数	人員	被害額 千円
陸前高田市	71	346	106,500	90	563	162,000	143	788	85,800	199	1,155	29,850
大船渡市	214	1,153	321,000	218	1,153	392,400	567	3,134	340,200	257	1,416	38,550
釜石市	17	83	25,000	11	50	19,800	25	111	15,000	768	3,773	115,200
宮古市	36	201	54,000	76	407	136,800	70	407	42,000	213	1,082	31,950
久慈市	1	4	1,500				4	20	2,400	4	22	600
大槌町	38	186	57,000	44	221	79,200	189	1,305	113,400	637	2,993	95,550
山田町	88	415	132,000	48	239	86,400	210	1,111	126,000	911	5,021	136,650
種市町				1	3	1,800				1	5	150
三陸村												
野田村				9	58	16,200	1	8	600			
計	465	2,388	697,500	497	2,694	894,600	1,209	6,884	725,400	2,990	15,467	448,500

◆家屋被害◆
家屋被害は、家屋の全壊465戸、流失497戸、半壊1,209戸、床上浸水2,990戸、罹災者数35,167名、罹災戸数6,678戸の多きに達し津波の侵入した地域のほとんどが大なり小なりの被害を受けた。

農作物関係被害 (1) 主要農作物

区分 市町村名↓	苗代		水 稻			雑 穀						被害額計 千円
	面積 ha	被害額 千円	冠 水		麦 類			大 豆				
			面積 ha	数量 t	被害額 千円	面積 ha	数量 t	被害額 千円	面積 ha	数量 t	被害額 千円	
陸前高田市	82	492	157	235.5	15,700	78	148.9	6,162	—	—	—	22,354
大船渡市	166	1,000	120	180.0	12,000	105	200.2	8,295	—	—	—	21,295
釜石市	127.5	750	78.4	117.6	7,840	4	7.6	316	5	0.6	35	8,941
宮古市	33	200	92	138.0	9,200	28	53.4	3,040	18	2.3	126	12,566
大槌町	100	600	27	40.5	2,700	2	3.8	158	7	0.9	49	3,507
山田町	433	2,600	110	165.0	11,000	20	38.1	1,580	15	1.9	103	15,283
田老町	—	—	10	15.0	1,000	10	19.0	790	5	0.6	35	1,825
種市町	—	—	—	—	—	2	3.8	158	2	0.2	14	172
三陸町	1.3	8	2	3.0	200	21	35.0	1,425	—	—	—	1,633
田野畑村	—	—	5	7.5	500	15	23.3	1,185	3	0.3	21	1,706
普代村	—	—	3	4.5	300	10	30.3	790	7	0.9	49	1,139
野田村	40	240	16	36.0	2,400	1.6	2.9	126	1	0.1	7	2,773
計	982.8	5,890	620.4	942.6	62,840	296.6	566.3	24,025	63	7.8	439	93,194

農作物関係被害 (2) 主要農作物

区分 市町村名↓	特 作 物											農業用 施設被害額 千円	被害額計 千円	
	蔬 菜			桑 園			養 蚕		そ の 他					被害額計 千円
	面積 ha	数量 t	被害額 千円	面積 ha	数量 t	被害額 千円	数量 箱	被害額 千円	面積 ha	数量 t	被害額 千円			
陸前高田市	30.0	900	18,000	4.0	38	375	60	42	5.0	65	875	19,292	4,150	23,442
大船渡市	50.0	1,500	30,000	7.0	66	656	85	60	9.0	117	1,575	32,291	8,100	40,391
釜石市	30.0	900	18,000	7.0	66	656	30	21	4.5	58	787	19,464	3,300	22,764
宮古市	13.0	390	7,800	5.0	47	469	160	112	18.0	234	3,150	11,531	3,150	14,681
久慈市	—	—	—	1.5	14	141	20	14	—	—	—	155	—	155
大槌町	—	—	—	3.0	28	281	10	7	2.0	26	350	638	—	638
山田町	15.0	450	9,000	2.0	19	183	25	18	28.0	364	4,900	14,106	1,500	15,606
田老町	—	—	—	—	—	—	—	—	2.0	26	350	350	—	350
種市町	5.0	150	300	1.0	9	94	5	4	—	—	—	398	—	398
三陸町	10.0	300	6,000	—	—	—	—	—	2.0	26	350	6,350	1,650	8,000
田野畑村	—	—	—	—	—	—	—	—	1.0	13	175	175	—	175
普代村	5.0	150	300	—	—	—	—	—	1.5	20	262	562	—	562
野田村	—	—	—	—	—	—	—	—	0.8	10	140	140	—	140
計	158.0	4,740	89,400	30.5	287	2,860	395	278	73.8	959	12,914	105,452	21,850	127,302

区分 市町村名↓	農 地 農 業 用 施 設										被害額計 千円
	水 路			橋 梁		海岸堤防		計			
	箇所	延長 m	被害額 千円	箇所	被害額 千円	箇所	被害額 千円	箇所	被害額 千円	被害額 千円	
陸前高田市	8	520	2,400	—	—	3	9,000	16	12,900	61,900	
大船渡市	20	1,100	7,600	—	—	—	—	35	12,100	61,800	
釜石市	—	—	—	—	—	4	4,800	4	4,800	28,100	
宮古市	3	200	1,200	1	600	6	7,000	13	9,700	40,400	
久慈市	—	—	—	—	—	—	—	—	—	300	
大槌町	5	350	2,000	—	—	—	—	5	2,000	9,500	
山田町	8	760	4,800	1	500	2	95,000	23	106,800	140,800	
田老町	—	—	—	—	—	—	—	—	—	4,600	
種市町	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1,500	
三陸町	8	320	4,800	—	—	4	69,400	18	77,700	83,100	
田野畑村	—	—	—	—	—	—	—	—	—	3,900	
普代村	3	200	1,500	—	—	—	—	7	3,500	7,600	
野田村	10	900	6,000	1	500	—	—	16	9,300	13,000	
計	65	4,350	30,300	3	1,600	19	185,200	137	238,800	456,500	

地域的には高田、大船渡地区が顕著であり、宮古、山田地区がこれに続いている。
1ヶ月後には淡水による塩抜きにより田植を行ったが高田地区では90%、宮古地区は60%程度であった。
この耕地の被害以外にも農道、水路、橋梁、海岸堤防等の損害がある。

◇農林、水産の被害◇
津波は海面の昇降による海上での流速と陸上へ上ってからの激しい流れのため、水産業および防潮林、一般林業施設にも猛威を振り、林業関係被害額、2億4300万円、水産関係被害額21億円に達した。
防潮林の被害は33ヶ所であり、そのうち高田松原では2ヶ所で大きく波の侵入を見た。1ヶ所は旧河川敷であり、林もまばらで幅も少なく弱点箇所であったが、幅200mにわたり欠壊し深さも6mに達した。また、他の1ヶ所は沼川の河川で林の切れていた部分である。これら2ヶ所から流入した津波が鉄道線路を乗り越え道床を破壊し、線路を折り曲げたと思われる。
宮古湾奥津軽石の津軽石川寄りでは林が厚く、二重になっており、山側に行くにつれ薄くなって一重となっている。今回はこの境目で切れた、ここは、背後に沼がある弱い所もあり、波が正面から押し寄せた場所でもある。
防潮林は水勢を弱めて背後の被害を少なくするので、弱点をもたぬよう一様に、生長させ幅をもたせる必要があり、生長した林は更新するか、下枝の少なくなったものは、地面を掘さくさねぬよう保護する必要がある。
水産関係の被害は、「のり」「かき」等の養殖施設、生産物、漁具等が流失、破壊し、大きな被害をもたらした。

市町村名↓	漁 船						漁 具						生産物 その他 被害額	合 計
	動力船		無動力船		計		定置漁業		その他		計			
	隻数	被害額	隻数	被害額	隻数	被害額	統	被害額	数	被害額	数	被害額		
陸前高田市	93	28,430	116	3,870	209	32,300	33	43,616	163	117,690	196	161,306	20,318	307,614
大船渡市	15	6,960	184	6,840	201	13,800	16	11,207	206	19,204	222	30,411	95,519	505,432
釜石市	37	3,058	89	1,950	125	5,008	20	63,579	317	20,109	337	83,688	23,998	197,020
宮古市	55	17,900	352	7,500	407	25,400	8	16,300	23	15,400	31	31,700	43,515	194,658
久慈市	7	837	30	1,410	37	2,237	8	9,300	41	460	49	9,760	4,840	24,772
大槌町	103	25,333	217	3,960	320	29,293	9	25,420	111	19,137	120	44,557	45,529	298,419
山田町	165	41,022	312	4,952	477	45,974	19	36,250	428	24,069	447	60,319	134,941	407,511
田老町	—	—	20	82	20	82	—	—	3	3	3	3	—	685
岩泉町	—	—	1	5	1	5	—	—	1	154	1	154	—	159
種市町	10	470	39	980	49	1,450	9	430	8	318	17	748	176	26,477
三陸町	19	2,760	82	1,405	101	4,165	20	24,754	19	2,150	39	26,904	5,012	43,255
田野畑村	2	20	—	—	2	20	2	2,400	3	30	5	2,430	—	2,868
普代村	3	1,600	14	510	17	2,110	2	12,400	1	65	3	12,465	—	14,855
野田村	8	4,560	53	1,850	61	6,410	2	400	20	900	22	1,300	1,217	17,011
計	517	132,940	1,509	35,314	2,626	168,254	148	246,056	1,344	219,689	1,492	465,745	375,065	2,100,736

市町村名↓	建設省所管											
	河川		海岸		道路		橋梁		都市計画		計	
	ヶ所	被害額	ヶ所	被害額	ヶ所	被害額	ヶ所	被害額	ヶ所	被害額	ヶ所	被害額
陸前高田市	6	125,200	2	467,000	3	75,000	1	1,500	—	—	12	668,700
大船渡市	2	122,300	1	32,000	7	6,900	5	45,509	24	6,274	39	212,983
釜石市	4	89,400	—	—	2	18,000	2	1,300	8	—	16	108,700
宮古市	4	52,800	3	139,600	13	67,460	—	—	—	—	20	259,860
久慈市	—	—	—	—	5	1,890	—	—	—	—	5	1,890
大槌町	5	44,900	—	—	2	4,000	1	300	—	—	8	49,200
山田町	4	23,400	1	6,400	2	10,600	1	1,100	—	—	8	41,500
種市町	—	—	2	53,800	—	—	—	—	—	—	2	53,800
三陸町	—	—	—	—	2	1,200	2	2,000	—	—	4	3,200
普代村	—	—	1	2,500	3	3,110	—	—	—	—	4	5,610
計	25	458,000	10	701,300	39	188,160	12	51,700	24	6,274	110	1,405,443

◆公共土木施設被害
この津波による公共土木施設被害総額は254箇所19億円におよぶものであった。この内訳は建設省所管14億円、運輸省所管1億円、農林省所管3億9000万円となっている。

林業関係被害

市町村名↓	防潮林		一般林業施設		林産物			計	
	箇所	被害額	棟数	被害額	木材	木炭	薪	被害額	被害額
		千円		千円	石	俵	石	千円	千円
陸前高田市	2	7,000	7	3,750	2,800	2,100	—	8,110	18,860
大船渡市	4	2,000	27	69,750	17,000	400	—	48,340	120,090
釜石市	4	4,000	4	2,100	3,400	1,500	—	7,345	13,445
宮古市	3	1,200	6	2,950	4,600	700	3,600	16,085	20,235
久慈市	3	2,600	3	1,500	2,000	—	—	4,000	8,100
大槌町	2	2,300	9	4,350	7,000	7,500	36	19,140	25,790
山田町	3	2,900	10	4,650	2,400	3,300	36	6,180	13,730
田老町	2	3,000	1	2	200	100	—	360	3,362
岩泉町	2	2,300	—	—	—	—	—	—	2,300
種市町	1	2,500	—	—	—	—	—	—	2,500
三陸町	4	2,000	3	1,450	2,300	3,400	—	6,730	10,180
田野畑村	1	920	1	5	—	150	—	30	955
普代村	—	—	—	—	—	—	—	—	—
野田村	2	2,000	—	—	1,000	—	—	1,700	3,700
計	33	34,720	71	90,507	42,700	19,150	3,672	118,020	243,247

水産関係等被害

(単位：千円)

市町村名↓	漁港		漁業施設						水産施設							
	施設数	被害額	かき		のり		その他		計		共同施設		非共同施設		計	
			施設数	被害額	施設数	被害額	施設数	被害額	施設数	被害額	箇所	被害額	箇所	被害額	箇所	被害額
陸前高田市	4	12,400	195	11,360	3,550	11,450	—	—	3,745	22,810	24	15,426	144	43,054	168	58,480
大船渡市	5	15,130	2,422	61,399	706	2,259	80	640	—	64,298	20	8,824	162	277,450	182	286,274
釜石市	25	30,390	355	8,490	2,092	2,624	5	60	2,452	11,174	39	19,821	112	22,941	151	42,762
宮古市	6	11,400	430	21,440	3,998	19,500	—	—	4,428	40,940	12	11,850	428	29,853	440	41,703
久慈市	5	770	—	—	—	—	50	1,000	50	1,000	5	3,000	118	3,165	123	6,165
大槌町	11	78,812	113	2,510	1,864	5,866	102	1,340	2,079	9,716	13	19,465	42	71,047	55	90,512
山田町	13	33,630	1,297	44,616	3,159	9,897	—	—	4,456	54,513	23	22,025	306	116,109	329	138,134
田老町	1	600	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
岩泉町	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
種市町	4	21,000	—	—	—	—	2,200	240	2,200	240	9	2,233	8	630	17	2,863
三陸町	—	—	126	4,284	362	1,150	—	—	488	5,434	8	800	18	940	26	1,740
田野畑村	1	418	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
普代村	1	200	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	2	80	2	80
野田村	1	4,000	—	—	—	—	—	—	—	—	7	1,399	18	2,685	25	4,084
計	77	208,750	4,938	154,099	15,731	52,746	2,437	3,280	23,106	210,125	160	104,843	1,358	567,954	1,518	672,797

畜産関係被害

区分 市町村名↓	家畜						飼料		計	
	大家畜		中家畜		計		数量 俵	被害額 千円	数量 千円	被害額 千円
	頭数	被害額 千円	頭数	被害額 千円	頭数	被害額 千円				
陸前高田市	3	180	15	150	18	300	—	—	18	330
大船渡市	—	—	20	200	20	200	1,500	1,200	20頭 1,500袋	1,400
釜石市	—	—	25	250	25	250	—	—	25	250
宮古市	—	—	62	620	62	620	—	—	62	620
久慈市	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
大槌町	—	—	45	450	45	450	—	—	45	450
山田町	—	—	31	310	31	310	—	—	31	310
計	3	180	198	1,980	201	2,160	1,500	1,200	—	3,360

教育関係被害

区分 市町村名↓	小学校		中学校		高等学校		市立各種学校		公民館		合計				
	校数	被害内容 被害額 千円	校数	被害内容 被害額 千円	校数	被害内容 被害額 千円	校数	被害内容 被害額 千円	校数	被害内容 被害額 千円	学校 施設数	被害額 千円			
陸前高田市	—	—	—	—	1	34坪 大破	300	—	—	—	1	300			
大船渡市	1	校地 150	1	校地 150	2	船舶1 実習田 638坪 実習 設備 80	1,500 638	1	90坪 全壊	3,100	6	全壊 大破 5,000	11	10,618	
釜石市	1	(30坪 全壊 900	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1	900		
宮古市	1	(285坪 半壊 給食 設備 2,400 225	—	—	1	船舶4 漁具 その他	6,540 80	—	—	—	—	—	9,245		
久慈町	—	—	—	—	1	船舶2 実習 設備 等	305 136	—	—	—	—	1	441		
山田町	—	—	—	—	—	—	—	—	1	全壊 1,700	1	1,700			
計	3	—	3,675	1	—	150	5	9,579	1	—	3,100	7	6,700	17	23,204

区分 市町村名↓	運輸省所管		農林省所管				合計			
	港湾		海岸		漁港		計			
	ヶ所	被害額 千円	ヶ所	被害額 千円	ヶ所	被害額 千円	ヶ所	被害額 千円		
陸前高田市	—	—	3	9,000	4	12,400	7	21,400	19	690,100
大船渡市	27	83,000	—	—	5	15,130	5	15,130	71	311,113
釜石市	3	4,360	4	4,800	25	30,390	29	35,190	48	148,250
宮古市	4	5,750	6	7,000	6	11,400	12	18,400	36	284,010
久慈市	7	1,850	—	—	5	770	5	770	17	4,510
大槌町	—	—	—	—	11	78,812	11	78,812	19	128,012
山田町	—	—	2	95,000	13	33,630	15	128,630	23	170,130
種市町	7	5,400	—	—	4	21,000	4	21,000	13	80,200
三陸町	—	—	4	69,400	—	—	4	69,400	—	72,600
普代村	—	—	—	—	1	200	1	200	5	5,810
田野畑村	—	—	—	—	1	418	1	418	1	418
野田村	—	—	—	—	1	4,000	1	4,000	1	4,000
田老町	—	—	—	—	1	600	1	600	1	600
計	48	100,360	19	185,200	77	208,750	96	393,950	254	1,899,753

地区として被害の最も大きかったのは陸前高田市、大船渡市であり、宮古市がこれに続いている。海岸災害に比し、河川災害は個所数で上回っており、津波が大きな流速で河川を遡上し、流下したことが考えられる。

商工鉱関係被害

区分 市町村名↓	工鉱業				商業				合計			
	事業 所数	被害額(千円)			店舗 数	被害額(千円)			事業 所店 舗数	被害額(千円)		
		施設	原材料 製品	計		施設	商品	計		施設	商品等	計
陸前高田市	9	5,700	17,300	23,000	58	13,280	15,115	28,395	67	18,980	32,415	51,395
大船渡市	96	443,300	235,310	678,610	418	914,470	573,120	1,487,590	514	1,357,770	808,430	2,166,200
釜石市	41	86,048	28,377	114,425	188	17,716	41,408	59,124	159	103,764	69,785	173,549
宮古市	5	1,200	15,502	16,702	8	—	2,920	2,920	13	1,200	18,422	19,622
久慈市	—	—	—	—	4	400	800	1,200	4	400	800	1,200
大槌町	19	71,150	52,830	123,980	75	41,670	13,180	54,850	94	112,820	66,010	178,830
山田町	24	23,135	14,345	37,480	224	130,800	87,200	218,000	248	153,935	101,545	255,480
計	194	630,533	363,664	994,197	975	1,118,336	733,743	1,852,079	1,169	1,748,869	1,097,407	2,846,276

◇その他の被害◇
商工、畜産、公共施設に次のような被害を与えた。

公用及び公共施設被害

区分 市町村名	庁舎及び附属建物		その他施設												被害額 合計 千円	
	県有	市町村有	鉄道施設				電信電話施設				被害額 千円					
	建物	建物	線路		その他		回線(被害)		電柱			ケーブル (流失)				
	棟	被害額 千円	流失 軒	被害額 千円	被害額 千円	被害額 千円	電信	電話	計	(流失)						
陸前高田市	2	300	-	-	410	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	710
大船渡市	3	3,200	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3,200
釜石市	2	900	1	81	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	981
宮古市	3	200	-	-	800	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1,000
久慈市	4	240	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	240
岩泉町	-	-	-	-	100	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	100
その他	-	-	-	-	-	(国) 7.8 (私) 0.8	120,000 1,950	30,000 2,544	150,000 4,500	回線 8	回線 1,643	回線 1,651	本 260	秆 8.4	107,000	257,000 4,500
計	14	4,840	1	81	1,310	8.6	121,956	32,544	154,500	8	1,643	1,651	260	8.4	107,000	267,731

第5 参考資料

2 県内各消防機関の活動

津波は、沿岸において確認したもので、6回来襲しているが、そのうち最も波高の大きい津波は、地域により若干時間の差はあるが、大体午前4時25分前後である。又津波警報の受領は午前5時25分であり、この差1時間であるが、幸いにも今回の津波は時間的にみて、沿岸漁民が磯漁作業のため、4時前後には海岸におもむくため、各市町村ともに、これらの漁民(主として消防団に在籍している)が異常な引潮を発見し、消防機関に通報したため、各消防機関は津波警報の受領をまたず、直ちにサイレン警鐘により警報を発令するとともに、消防ポンプ自動車、連絡車等により津波の来襲を伝達し、避難誘導に当たった。

しかし、異常引潮の発見が遅れ、津波警報の発令が遅れた大船渡市は死者を多く出している。津波来襲後は、連日出動、各種作業に従事しているが、各市町村別の活動状況は次のとおりである。

宮古市

○警報発令前後の活動状況

5月24日未明宮古市消防士白鳥定男(当31才)が望楼勤務に従事していた午前3時15分頃、望楼から約170m南方に流れる閉伊川の水音に不審をいだき注視中、動力の音がないのに川口方面に向かって相当の速力で流れて行く、白色の船を発見し、ますます不審をいだいていたが、夜が明け始めた時、川幅約120mの閉伊川の水が1/4位に狭くなり、横倒しになっている船、4、5艘を発見して、津波による海上異変と認め、望楼よりの直通電話により、消防署に連絡、消防署より市長ならびに署長に報告し、3時45分市長の命により第1回の緊急避難信号(サイレン吹鳴)を発するとともに、津波来襲を市民に周知するために広報車が出動した。消防団長佐々木藤次郎(当66才)

は午前3時30分消防署よりの緊急電話により津波来襲を知り、直ちに出勤、消防本部にあって副団長志賀秀雄(当55才)補佐のもとに消防団員の非常召集を行ない、海岸地域を担当する各分団に対して警戒指令を発し、警報の伝達、避難の誘導、避難民の保護、海上監視の指示を与える等第一線の活動の統制をとった。

副団長山内良平(当46才)は団長の命により宮古市藤原地区、磯鶏地区、高浜地区に消防本部の指揮車で緊急避難命令の徹底と消防団員の配置状況を監督するために出発、第3波の大津波来襲(午前3時50分)の直後であるため、道路の障害物が散乱し通行に混雑を極めたが被害甚大の高浜部落に入り、その状況を消防本部に連絡した。

副団長山根松太郎(当51才)は午前3時30分頃、津波来襲を察知するや災害激甚地の一つである津軽石赤前地区に居住する副団長として津波来襲時の業務編成に従い、津波警報未発令であったが緊急避難信号と同時に同地域消防団の第一線指揮者として住民の避難誘導、避難民の保護あるいは危険をおかしての人命救助等の指揮をとり住民の生命、財産の安全を守った。

山内副団長の報告により待機中の宮古地区第1、2、3、5、8、9、12、13、花輪地区17、18、19、津軽石地区21、23、重茂地区24、25、26、27の17ヶ分団に現地出動を命じ、救護と警備に当たらしめた。

なお、第4、6、7、10、15、16の海岸地域の分団をもって別に海上救助隊を編成、船を激浪上に出動せしめて、海上に押し流された者、5、6名を救助した。

○災害発生後の活動状況

5月24日、現地市民の救護と民心安定のため、まず、交通の確保に従事し、八戸、仙台線2級国道上の物件除去と、破壊せられた個所の応急復旧に当たり懸命の作業を続けたが、午後5時までに路上11mの津波が、4回も来襲したため、24日中に開通するに至らなかった。

5月25日、午前は午前8時より前日同様作業に従事し、自衛隊の応援を得て全線午後6時頃開通することができた。

5月26日からは学生、生徒、各種団体の協力を得て、被災地域の整

備に出勤し、6月8日まで延3千841名の消防団員が出勤して災害復旧に当たった。

特に、激甚災害地の高浜地区を所轄する11分団は、副分団長笹平喜智雄(当37才)以下10名が津波の来襲を知るや、部落民の避難誘導に当たり、災害を最小にとどめるとともに来襲後は引続き、災害地の復旧整理作業に出勤し、夜は民心の安定と警戒のため夜警を行ない、作業をかえりみず、6月8日までの16日間も出勤し、災害地の復旧、罹災民の生活安定に尽くした。

その他5月24日より6月20日までの28日間の長期間にわたって災害地の飲料水確保のため、消防署、消防団が協力して、消防署のタンク車をもって毎日1万2千リットルを災害地に運搬配給した。

田老町

5月24日、午前4時35分消防団員60名出勤して、警戒体制に入り、事前計画に基づいて、住民の避難誘導、防潮堤の通行門閉鎖、高波の警戒等に従事した。

今回の津波においては、おおむね被害はなかったが、浜辺に置かれていた若干の小漁船の流出があったので、その回収および陸地に打ち上げられた漁船の除去等に従事した。

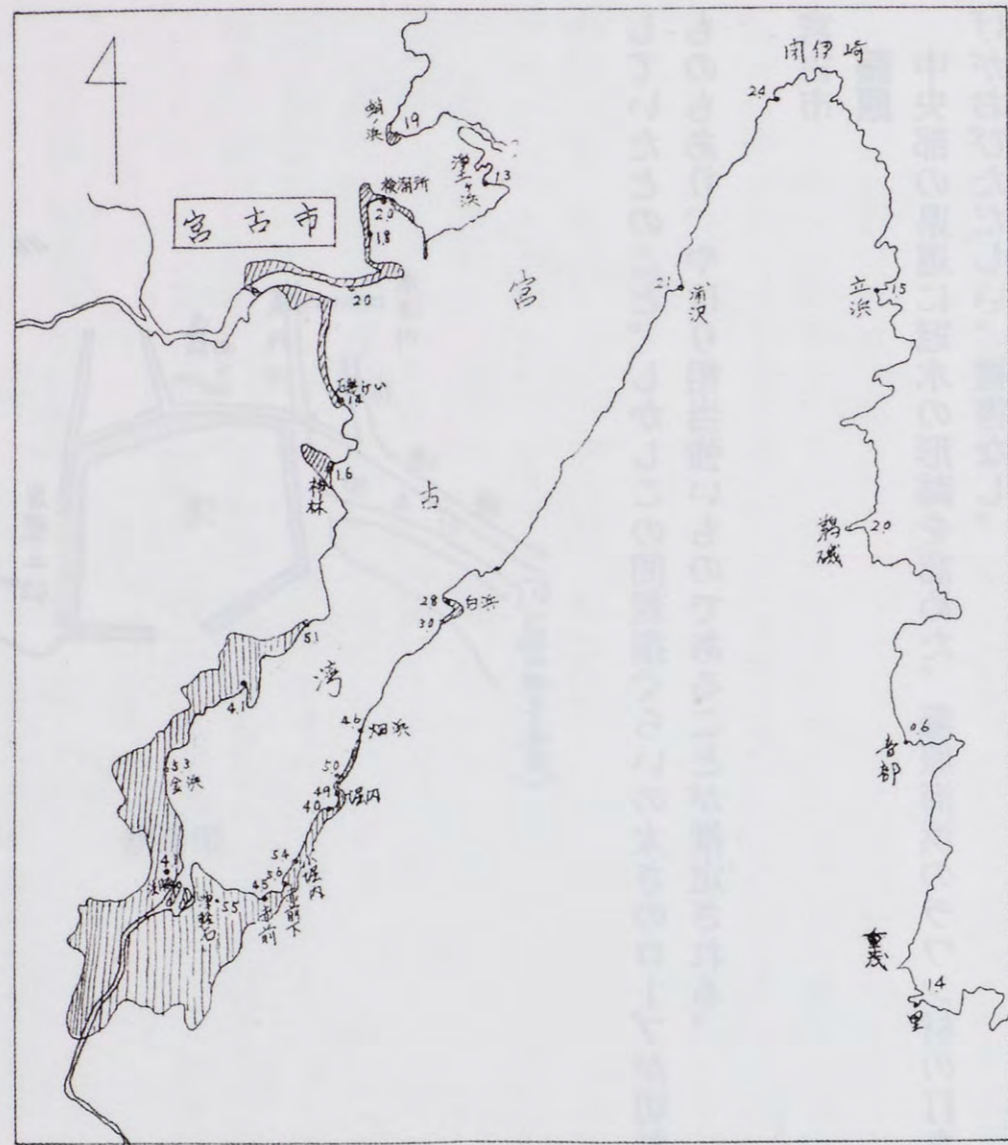
岩泉町

5月24日、午前3時30分頃、津波来襲により海岸地区消防団員90名が出勤し、避難誘導に当たり引き続き夕刻まで、潮の見張りに当たった。

2 チリ地震津波調査報告書

「昭和35年5月24日チリ地震津波調査報告」仙台管区气象台

(1) 各地の最大波高(最大浸水高)



最大波高と浸水地域 宮古湾周辺(平常潮位からの値)

(2) 踏査ならびに状況報告

「昭和35年5月24日チリ地震津波調査報告」仙台管区气象台

田老町

摂待

(現地に行かなかったが、この村の人から聞いたもの) 3時30分ころ出漁した人がこの時既に摂待川はブクブク潮があわを立てていた由。ここでもやはり第1波は3時30分前であることが推定された。押し波だいたい1メートルくらい。

田老

(1) 最高潮位3・02メートル時刻1時20分。消防団副団長鳥居氏が田老港北側堤防付近で目測した結果を形跡と照らし合わせて確認した。

(2) 津波の来襲状況(役場観測資料)

第1波	04時00分	押し波	2メートル
第2波	05時23分	〃	2メートル
第3波	07時20分	〃	3・02メートル最大
第4波	09時50分	〃	2メートル

第3波襲来前に引き波が大きいので役場に連絡、サイレンを吹鳴(7時)し全員を待避させている。

(3) 浸水区域図

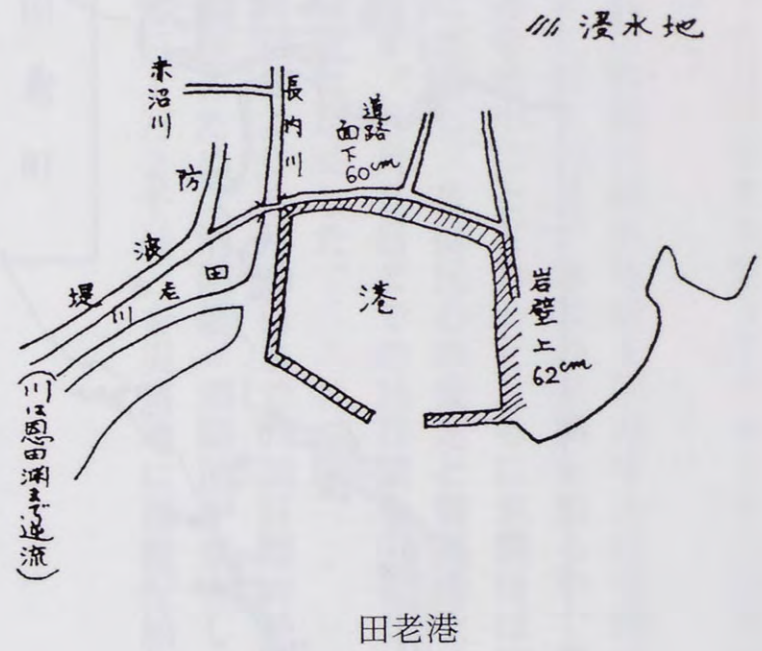
図のとおりで昭和8年に比し範囲が非常に狭く、道路の冠水は1か所もない。

(4) 被害

岸壁上に積んであった木材70石流失。

(5) その他

当日早朝3時ごろわかめの解禁日のため20隻近くのサッパ船(0・3ト無動力)が出漁しており、うち1隻は4時ごろの引き波により湾口東側の突岬で転覆している。その他の舟は津波であることを察知し沖にこぎ出し難をのがれた。この体験者談によると、波の方向は正東、舟の進退が困難だったが、潮の流れの音は無かった。しかしこれらのサッパ船は夕方まで漁協の海王丸に沖でロープを渡され夕方まで避難



していたとのこと。しかしこの間親指ぐらいの太さのロープが切れたものもあり、やはり相当強いものであることが推定される。

宮古市

藤原

中央部の県道に冠水の形跡を認めた。藤原海浜のラワン材の打ち上げがおびただしい。被害なし。

磯鷄

田畑約6町冠水。

高浜

県道の東側にあった民家、その他の建物は一つも残っていない。西側の建物もほとんど山ぎわに押しつけられてつぶされている。民家が道路をさえぎり、また船が道にのしあげ通行は困難であった。高浜から金浜に曲がる途中のがけが道路までつき出して波の形跡が歴然としていた。道路上よりの高さは160センチぐらい。海面が振動しているので海面上よりの測定はできないが、突堤の高さ5センチを目標にする

と、浜、金浜地区5・3センチの測定値が得られた。高浜中学校も校庭は海と化し、近くの川にかかった県道の橋は流失していた。門柱のミカゲ石の一つは横倒しになっていて、もう一つは見当らなかったが、いかにこの近くの波が強かったかが想像される。

金浜

金浜の山寄りの県道に平行して山田線が高さ7センチぐらいの土堤の上を通っている。この土堤の約2センチぐらいの高さのところには波の形跡が見えた。この線路の東側の建物は全部流失、または全壊していた。西側でもこの土堤のところどころにある切れ間から流れ込む波のため破壊されていた。のき下に達しているところも少なくない。鉄道線路の破壊はここから次の法の脇に至る区間が最もはなはだしい。原位置はわずかに形跡をとどめる程度で鉄道線路はあめのように曲がって山ぎわに寄せられていた。

法の脇

津軽石地区の入口になっているこの付近の破壊の百分率は一番大きい。津軽石川の河口に位置し低地になっているためもあるが、一番湾奥で海も浅いため、波が奥地まで到達したものと思われる。この地区踏査中10時40分の押し波が県道を越え、つぶされている民家が再び水びたしになった。

赤前

3時前に第1波があったことは漁師により確認されている。湾の奥に位置しているが堤防があること、防潮林がその次にあること、民家は比較的高く、海岸から遠く離れたところにあるため被害は少ないが、堤防付近で高さ5センチぐらいの地区民により確認されている。なお防潮林に波の形跡があるが近よれないので波高の測定は後日に行なった。(6月2、4日実施)

立浜、鷄磯、音部、重茂、姉吉、千鷄および山田町川代

この海岸は一般に人家が高台にあって海岸から離れているため、津波のなまなましい状況を直接聴取することが少なく、また被害も全然なかった。ただし川代、千鷄では漁師が出漁しており、当時の状況が

つかめた。すなわち、千鷄では舟尾がとられて自由を失って意のままにならなくなり、潮の異常を感じとって陸に向かって津波の襲来を知らせた。また海岸ではいまだ見ることのできなかつた海底が見る見ることが現われ、くぼ地では素手で魚を捕えたぐらいで引き潮の大きかったことを如実に物語っていた。

川代では地形がちょうど山田湾口の狭いところにあたっていたため、押し波が白波を立ててゆくのが多くの人によって非常によく見えたことである。

